

# かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 10 No 11

112号

平成14年11月1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

## インフルエンザ2002

院長

インフルエンザを心配する季節になりました。インフルエンザについての記事を時々掲載していますが、最後は1999年11月でした。この数年間で、インフルエンザの診断と治療法が大きく変わってきたので、その点も含め考えてみましょう。

皆さん御存知のことと思うので、症状については軽く触れるにとどめます。発熱と呼吸器症状が特徴で、高熱が続く、咳がひどく、年長児では咽喉の痛みや節々の痛みなどが特徴です。カゼの仲間と考えてもいいのですが、肺炎の合併率が高く重症化することがあります。毎年老人の肺炎と乳幼児の脳炎・脳症が大きな問題になっています。重症度や生命的予後を考えると、単なるカゼとは違うと考えたほうがいいでしょう。

まず、診断法の進歩から説明しましょう。従来、診断の根拠は臨床症状と周囲の流行状況でした。年長児や成人では典型的な症状を示し診断は比較的容易ですが、乳幼児では症状があまり典型的でないことが多く普通のかぜと区別できない場合がほとんどです。血液の抗体価の検査もありますが、急性期には判断できないため診断には役立ちません。近年インフルエンザ用の迅速診断キットが開発され、わずか10～20分程度で診断することが可能になりました。のどや鼻の中を綿棒で擦って検体を採取して、インフルエンザウイルスを検出する方法です。希に出血などを起こし痛みは伴いますが、かなり正確に診断が可能となりました。

最近インフルエンザの治療に関しても、目覚ましく発展しました。ウイルスの増殖を抑える薬が認可されただけでなく、新しい薬剤も開発されたのです。従来パーキンソン病の治療に用いられていたアマンタジンという薬剤が、インフルエンザの治療薬として1998年に認可されたのですが、欠点はA型ウイルスにしか効果がないことです。2000年にA型B型両方に効果がある薬剤が認可され、インフルエンザに対する治療は一変しました。この新しい薬剤は2

種類で、吸入薬のザナミビル（リレンザ）と経口薬のオセルタミビル（タミフル）です。ザナミビルは主として成人用として用いられ、オセルタミビルは成人用の錠剤以外に小児用の顆粒が2002年秋から使用できるようになりました。両者とも成人や年長児を中心に使用され、十分な効果が確認されています。抗ウイルス剤はウイルスの増殖を抑える薬なので、早く使うほど効果が高く発熱から48時間以内であれば効果が期待できます。発熱は、服用後1日で40%、2日目では80%が改善されます。時間が経つと効果が無くなるので、インフルエンザが疑われるときは早めの受診を心がけましょう。

もう一つ脳炎・脳症と解熱剤の関係が取りざたされています。両者の関係については十分解明されていませんが、重症な合併症なので危険性を減らすことが大切だと思います。脳炎・脳症の発症した例で多く使われている解熱剤の使用を見合わせるよう警告も出ています。特にジクロフェナクナトリウム（ボルタレン）は小児での使用は禁忌となり、メフェナム酸（ポンタール）も使われなくなりました。現在、比較的安心と考えられている解熱剤には、アセトアミノフェンとイブプロフェンがあります。しかし、解熱剤の使用は、熱による苦痛を取り除くことを目的として、必要最低限に使うことが原則です。

毎年話題になるインフルエンザワクチンにも、少し触れておきましょう。ワクチンの有効性に関しては、様々な報告があります。高齢者に対するワクチン接種が平成13年11月から個人の発病又はその重症化を防止し、まん延防止を目的として、法律によって予防接種を行う病気（二類疾病）に指定されました。高齢者における有効性は、疑いようの無いところですが、ワクチンを接種するようになってから、肺炎で死亡する高齢者の数が減少しているという事実があります。しかし、乳幼児に対する有効性に関する十分なデータは無く、現在研究されているところです。様々な条件によって有効性は異なりますが、A型では50%、B型では70%程度と考えられます。治療法の進歩はありますが、インフルエンザにかかってからしか治療はできません。症状が重いというだけでなく重症の合併症からも、予防策の一つとしてワクチンも考慮したいものです。

インフルエンザの詳しい症状は過去の新聞にも出ています。詳しくは、待合室の院内報をご覧ください。もう一度この機会に、インフルエンザを勉強しておきましょう。



・臨時休診  
11月9日（土）は、東北北海道小児科医会連合会（山形）で発表のため、午後休診となります。御理解と御協力をお願いします。

11月のお知らせ

## 読者の広場

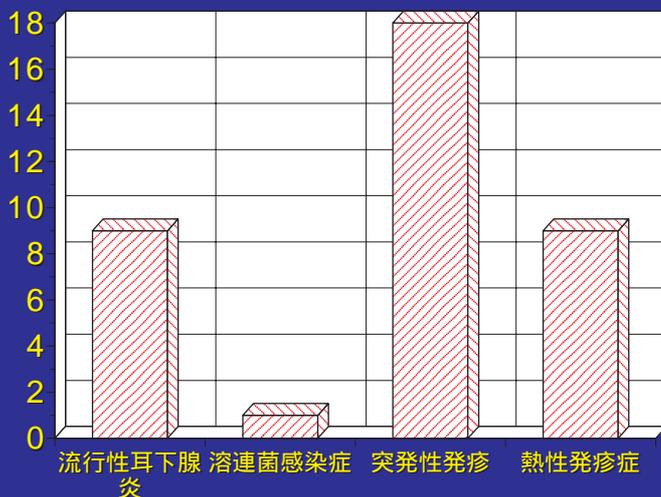
先月は29通のメールを頂きました。今月は相談事が多く、旦那さん(?)の相談までありました。最近落ち着いている青葉区の太田さんから「こんばんは。いつもお世話になっている太田千秋・将鳳の母です。この季節、いつ風邪ひいてしまうのか・・・なんて心配もよそに、今年の子供達はいまのところ毎日元気に過ごしています。大きくなって体も強くなったのかな?。ところで、今日は千秋について、お聞きしたいことがあってメールしました。先生もご承知のとおり、千秋は喘息持ちですが、最近、学校の授業で、小動物と触れ合うというのがあるんです。それで29日は動物愛護センターで、うさぎ・小犬・モルモットと遊ぶという学校行事があるのですが、千秋に、マスクするから触ってもいいかな?と聞かれまして・・・。担任の先生からも電話がきてどうすればいいでしょう?と聞かれたので、川村先生に聞いてみてからお返事しますとお話ししました。(略)29日はどのような対処をすればいいのか、お返事いただければと思います。お忙しいところ申し訳ありませんが、よろしく願います。」と、相談を受けました。返事を「普段接触していないものには、すぐには反応しないことがほとんどです。このような場合は、動物愛護センターに行くこととたまたま起こることをどちらを優先させるかということです。まして最近安定しているのであれば、行くのは構わないと思います。絶対起こらないとはいえませんが?。ただあまり神経質になりすぎると、どんなところへ行くのも心配になってしまいます。学校も心配しているようです。29日は当院も診療しています。何かあれば連絡の上、連れてくればいいでしょう。あまり神経質にならず、こどもにとって大切なことを選択してあげましょう。子育てだけでなく生きていくうえには、二つのうちどちらかを選択しなければならないこと(CLINIC NEWSの二兎を追う者をも読んでみてください)はたくさんあります。動物愛護センターとても大切なことだと思います。担任の先生が心配しているようであれば、このメールにひと言添えて千秋ちゃんに持たせてやって下さい。」返したところ、お母さんから「お忙しいところお返事いただいてどうもありがとうございます。体調も安定していることだし、楽しんでくるように言って送り出してあげようと思います。火曜日は午後診療しているんだし、何かあれば診ていただくこともできますもんね!。今まで、犬などは、怖がって近づくことすらできなかったのに、触ってみたい、かわいがってみたいという気持ちになった千秋。当日は風邪などでお休みしないよう、体調管理に気をつけてあげたいと思います!!。千秋の入学を機に、このPHSを買いました。川村先生と、こうしてメールでやりとりできるようになって、うれしいです! それでは、川村先生もお体に気をつけて・・・。おやすみなさい。」と、返事をいただきました。そして案の定、何の問題もなく千秋ちゃんは動物愛護センターに行くことができました。次は、多賀城市の木村さんからです。赤ちゃんの頃卵アレルギーで散々苦労したお子さんです。食べられるようになった報告とお礼です。「木村優希です。先生、加熱した卵料理食べられるようになりました。生はまだですが取り合えず克服しました。これも先生の御陰です。先生と出会わなければ、きっと今でも食べることは出来なかったと思います。先生に出会えて本当に良かったです。これからも色々な事で悩んでいる親子の助けになって下さい。また何かあったら宜しくお願いします。本当にありがとうございました。」。今回も多くの方からメールを頂きましたが、紙面の関係で紹介できません。投書ありがとうございました。



2ヶ月連続で、水痘はでませんでした。開業以来(?)ででしょうか。とても珍しいことです。先月まで見られていた夏カゼの手足口病などが、やっとが見られなくなりました。寒暖の差が激しくなってから、喘息の子どもたちが多く見られています。最近、高熱と咳、高熱と嘔吐のカゼが見られ、マイコプラズマ肺炎もあるようです。

**お母さんクラブの御案内** 11月14日(木)に「インフルエンザ ちょっと怖い病気?!」を開催。講師は、院長です。新しい診断法や治療法を中心に。役に立つこと請け合いです。詳しくは受付まで。

### 10月の感染症の集計



### 予防接種のお知らせ

インフルエンザの予防接種の予約受け付けます。接種は10月中旬以降の予定です。13歳以上は1回または2回の接種。昨年接種した方は原則として1回でかまいません。また13歳未満では、1~4週間の間隔で2回接種します。接種年齢は生後6ヶ月以降としています。

接種料金(1回)

3000円+消費税

#### 編集後記

ここのところ高熱や咳、嘔吐するカゼで、少し混雑してきました。今回も学会の準備で、忙しい毎日です。一つ終われば次と、なかなか余裕が出てきません。ところで誰か、日経ヘルス読みました?。「名医が答える誌上診察室」に載っていましたよ。また載ります。立ち読み(?)を



お詫び 平成14年6月から10月号まで 号数に誤りがありました。正しくは6月107号、7月108号、8月109号、9月110号、11月111号の誤りです。お詫びして、訂正いたします。